



今季W杯でも1位を取った好調のジャンプ

全日本コンバインド大会

現在W杯ポイント日本選手4番手につけ、ピョンチヤンオリンピックを目指している加藤大平選手(和寒町出身)が、地元応援団の声を背に“優勝”を決めた。

優勝は最低条件

この大会日本複合エースの不在などで、加藤選手には“優勝”の最低条件を課せられたが、これをしっかりとクリアし、コーチ陣にアピールした。

「ここで勝ってもオリンピックの選考とかは全く関係ないけど、負けられなかった。これで気持ちよく年明けからのW杯に挑める」

と4年に1度の大舞台へ照準を合わせた。

得意のジャンプでは97mのK点越えを見せ、2位につけると、後半はトップと26秒差でスタート。1周目(25km)より早くも追いつくと5kmを過ぎたところで一気に先頭に立ちそのままゴール、同じW杯遠征組の選手に10秒の大差をつけ勝利を手にした。

地元応援団30人

加藤選手後援会は、応援団を結成し30名もの町民で会場に駆け付けた。

会場内には「大平いけー、ガンバレー」の応援がこだまし、優勝の瞬間はみんな歓喜に沸いた。応援団からは「優勝嬉しいね。このあと(オリンピック)も頑張ってほしいね。」と笑顔がこぼれていた。試合前には地元応援団へメッセージがありますかとの問いに「優勝目指して頑張ります」と一言。そして今日の勝因を尋ねると、「地元の応援が力になった」と話していた。

目指すはオリンピック

「膝の手術の影響で昨シーズンには思うように体が動かなかったが、その傷も癒え今シーズンを迎えた。怪我の状態は良く、昨年までの状態だとクロカンで逃げ切れなかっただろうけど、今回は逃げ切れなかった。状態は全然良い」と好感触を口にした。

二人三脚で大平選手と世界で戦っている富井コーチはこの優勝に「最低限ですから、当然です」とコメントしながらも表情はゆるんでいた。ピョンチヤンオリンピックまであとわずか、目指せオリンピック出場!そして輝くメダルを手に入れろ!

